

アメリカのケーブルテレビ
——プログラム・サービスについて——

井 上 宏

Cable Television in America
—Program Services—

(2) CNN & HEADLINE NEWS

Abstract

Cable News Network, Inc.(CNN) is a subsidiary of TBS (Turner Broadcasting System Inc.). CNN is well known as an exclusive news channel which provides a 24-hour news programming service available to cable system throughout the U.S. Later, it initiated an additional 24-hour news service, Headline News. At present, CNN is broadcasting TV news not only to the U.S, but to the world at large. Japan is one of the countries which receive CNN's broadcasts, but the audience is limited. The whole image of CNN is not being given to us yet. In the present essay I considered the reason why CNN has had such a great success, examining CNN's history, management, organization, programming and so on. CNN challenged the major 3 networks, CBS, NBC, ABC which had dominated the TV news world, and succeeded in developing a new TV journalism. It is now clear that CNN has a plan to become a leading world TV news organization. It seems to me that CNN appears as a global mass medium. In the domestic area, CNN is effectively servicing to its audience through two channels, CNN and Headline News. I consider here what kind of news organization CNN is, by examining its programs in detail.

Key words : American cable TV, CNN, Headline News, TV journalism, global news, program supplier

抄 録

CNNは、TBS (Turner Broadcasting System Inc.)傘下の会社であり、1日24時間、全米のケーブルテレビ向けにニュース番組を提供している。後に、CNNはもう一つの24時間放送のHeadline Newsをスタートさせた。現在、CNNはアメリカだけでなく全世界に向けてニュースの配信を行っている。日本は、CNNを受ける国々の一つであるが、視聴者は一部の者に限られており、CNNの全貌についてはあまり知られていない。CNNの歩み、運営、組織、番組編成の全体について検討を加え、何故CNNが今日の成功をみたかを明らかにする。CNNはテレビ・ニュースの世界を支配している3大ネットワークに対抗し、テレビ・ジャーナリズムの新しい分野を開拓する。今では、CNNが世界のテレビ・ニュース機関に成ろうとしていることは明らかであり、グローバル・ワイドでのマスコミを志向していると思われる。国内では、CNNとHeadline Newsの二つのチャンネルを巧みに使い分けて、視聴者のニーズに応じている。番組の詳細を検討することによって、CNNとは、どんなテレビ・ニュース機関かについて考察する。

キーワード：アメリカのケーブルテレビ、CNN、CNNヘッドラインニュース、テレビ・ジャーナリズム、グローバル・ニュース、プログラム・サプライヤー

はじめに

CNN はアメリカのケーブルテレビ向けの配信を専らとしながらも、1991年1月の「湾岸戦争」の報道では、世界に於てのみならず、この日本に於ても大きく脚光を浴びることとなった。日本では、CNN は JCTV (日本ケーブルテレビジョン) が輸入をして、ケーブルテレビやホテル、企業、大学など個別契約者に対して流しているのと、放送局のテレビ朝日と NHK が契約をしてテレビを通じて紹介するのと二つのケースがある。日本では、まだケーブルテレビが普及していないので、CNN は専らテレビ放送と NHK の衛星テレビを通じて、人々に広く知られるところとなった。今回は、この CNN を取り上げることにするが、「湾岸戦争」での CNN については、その分だけを別の機会に取り上げることとし、ここではそれまでの CNN の歩みについて見ていくことにしたい。

CNN は TBS (Turner Broadcasting System, Inc.) のニュース部門の一つで、TBS はニュース部門として、この CNN (Cable News Network) と Headline News, CNN International の3部門を持っている。いずれも拠点は、米国ジョージア州のアトランタにある。

1. CNN (Cable News Network)

1) CNN の誕生

CNN は1980年6月1日にスタート¹⁾。全米のケーブルテレビ向けに24時間のサービスで、ニュース専門のチャンネルとしてデビューした。この時、到達出来たのは全テレビ所有世帯の僅か2%に過ぎなかった。同年7～8月には早くも全国党大会の模様を生中継する。80年度は収入が700万\$に対し損失が1,600万\$であったというから、出発の困難がいかに大きかったかが分かる。

81年に入っては、1月に議会の聴聞会を取り上げ、最初に国務長官アレキサンダー・ヘイグ承認の模様を生中継。これは重要な議会聴聞会生中継の最初となる。4月にも最初のスペース・シャトル打ち上げの生中継を取り上げる。CNN はニュース専門チャンネルとして、放送時間に縛られず、生中継によって重要イベントを次々に取り上げていく。当然のことながら、これまでのABC, CBS, NBC の3大ネットワークのニュースと競争関係に立ったことは言うまでもない。CNN は、ホワイトハウスのプレス・プールに参加を認めてもらえず、そのためそれへの平等な参加権を得るために、CNN は ABC, CBS, NBC とホワイトハウスを裁判に訴える。翌82年4月にCNN はホワイトハウス・プレス・プールへの同等の参加権を得ることとなる²⁾。

82年4月にはネットも伸びて、加入世帯はニールセン調査でテレビ所有世帯の17% (13,855,000) を記録する。同月、CNN はキューバから、1958年以来アメリカとして初めて生中継を行

う。また CNN は24時間ニュース放送の全国向けラジオ放送を開始。6月には日本とオーストラリアが CNN の最初の国際配信を受ける。経営的には赤字を続けながらも、順調な伸びを示していくが、この82年、CNN は大きな試練に直面する。

2) SNC (Satellite News Channel) との競争

ウエスティングハウス (Westinghouse) と ABC ビデオ (ABC Video) とがヘッドライン・ニュースの専門チャンネルをスタートさせるという計画 (1982年6月スタート) を受けて、CNN はそれよりも早く、1月早々 (81年12月31日の midnight) に CNN 2 をデビューさせるのである。この時の CNN 2 への加入世帯は8万であった。6月には、予定通り ABC ビデオとウエスティングハウスがジョイント・ベンチャーとして設立した SNC (Satellite News Channel) が、CNN に対抗してニュース専門チャンネルを開始しだす。

ケーブルネットワークの競争は、いかに多くのケーブルテレビ局 (システム) に受けてもらうかで争われる。新規に参入する場合は、ケーブルシステムで新しいチャンネルを割り当ててもらう必要がある。言ってみれば新しい棚取りをやらなければならないのである。

SNC は15分のヘッドライン・ニュースを特徴とし、内容は ABC ネットワークからの支援を受けてのものであった。SNC はシステム側がベーシックに入れると、見返りにシステム側に1世帯当り1.50\$ までを支払うという手段を取った。実際にはその3分の1はプロモーションのための費用ではあったが、この経済的利益はシステム側にとっては、魅力のあるものであった。

CNN 2 は、ニュース・ヘッドラインを30分のサイクルでリピートしていく方法をとった。30分で世界を見せるというわけだ。既に CNN を契約しているシステムには、CNN を無料で提供し、更にヘッドライン・ニュースをテレビ局にもセールスした。CNN を受けていないところには、月額1加入世帯当り5セントを請求。CNN それ自体は月額1加入世帯当り20~25セントをシステム側に課していたが、ここには CNN 2 を無料で提供することとしたのである。CNN はさらに、SNC に対抗するために、新しく加わるシステムには、親会社が同じの WTBS (現在の TBS Super Station) と CNN と CNN 2 の3つを向こう3年にわたって契約すれば、1年に1加入世帯当り1\$ を支払うこととした。

激しい競争が展開されたわけだが、翌83年の後半に入ると、視聴者からは、CNN と CNN 2 のコンビネーションの方が好まれることが明らかになってくる。8月には CNN 2 は名前を HEADLINE NEWS と変えた。SNC の損失が4千万ドルと見積られる中、CNN は83年10月に、SNC を ABC Video Enterprises と Westinghouse Broadcasting & Cable から買収し、HEADLINE NEWS に合併してしまう。これによって CNN HEADLINE NEWS は新たに230万加入世帯を得て、合計900万加入世帯を擁することとなる。

競争には、ジャーナリズムとしての質、料金構造、衛星の位置の三つの問題が関係すると言われている。ケーブル産業のメイン衛星が Satcom 3-R であり、CNN はこの衛星に乗っていた

が、SNC は Wester 5 に乗り、これを受けるためにはシステム側は2番目の受信アンテナを備え付けなければならなかった（一つで受けられる性能のよいアンテナも可能ではあった）。SNC は、地理的に分けたリージョナル提供方式のサービスをしたが、これを利用するためには、特別なスイッチ装置のために2千ドルを越える費用が必要とされた。ともあれシステム側からすると余分な出費をしなければならなかったわけである。それとより重要な料金の問題であるが、MSO (Multiple System Operator) と CNN との契約更新の交渉で最も影響があったのは、加入世帯当りの料金であったようである³⁾。

1980年代の終わり頃、NBC が CNN と競合するケーブルニュースを考えたことがあり、ABC の前例も考慮して新しい棚取りが困難と見てとり、CNN の経営権の一部を買い取ろうとしたが、ターナーとの話し合いは成功せず、NBC は手を引くことになった⁴⁾。

3) ニュースの2チャンネル体制

CNN は競争することで、その結果相手を吸収合併してしまうわけだが、そのことによって、ニュースを24時間専門に流すチャンネルを2つ運営することになる。収入も増やすが赤字も大きくなる。それでも2チャンネルを使ってニュース番組の使い分けが出来たということは、テレビニュースの番組編成戦略において成功をもたらした大きな条件になったと言わなければならない。SNC からのチャレンジを受けて立ったことが幸いしたと言える。24時間サービスということ自体も、他のネットワーク・ニュースを引き離す条件ではあったが、2チャンネルを一つは事件に対していつでも柔軟な対応が出来るチャンネルとして、他の一つは30分パッケージのヘッドライン・ニュースとしていつでも世界の主なニュースが見られるチャンネルとして、使い分けが出来たことの意味は大きい。

CNN は24時間体制だから、世界のどこで事件が起ころうとも、取材体制さえあれば瞬時に事件がカバー出来て、それがそのまま放送に持ち込めるという利点がある。事件はいつも起こるとは限らないし、一つの事件ばかりを放送し続けることも出来ないことは言うまでもない。CNN には、一定の番組編成表があり、それによってレギュラー放送のパターンがある。しかし事件があれば、それはいつでも柔軟に切りかえられるのである。生中継で延々と放送を続けることも思いのままである。総合編成をとる3大ネットワークでは、そうはいかない。レギュラー放送の番組があり、スポンサーがついている関係から、余程の重大事件でないと、番組変更は難しい。従ってニュース速報に関しては、CNN が先んじるというのは当然のこととなる。一方の HEADLINE NEWS は、最新の世界ニュースと主な国内ニュース、スポーツ・ニュースを30分のパッケージにして、繰り返し流し、新しいニュースが入れば随時差し替えられて行く。視聴者が見たいときにいつでも見られるようにサービスされているところが、HEADLINE NEWS の特徴である。これら二つのチャンネルが支えあっているところが、全体としての CNN の強みであると言ってよいだろう。

4) 内外に伸びる CNN

1984年4月、CNN は番組表彰で、ジョージ・フォスター・ピーボディ賞（George Foster Peabody）を授賞。7～8月にはサンフランシスコでの民主党大会とダラスの共和党大会の模様を初めから終わりまでの全てを中継した。

85年3月、「The International Hour」という世界ニュースだけを専門に扱う番組をスタートさせる。4月にはナイロビにニュース・ビューローを開設。東アフリカのニュース取材地点として、アメリカのネットワーク 唯一のものとなる。6月、バイルートで起こった TWA ハイジャックでの人質解放の放送は、CNN として記録的な視聴者を生み、ベーシック・サービスでは最も高い視聴率を示した。この6月から、かの有名なパーソナリティー、ラリー・キング（Larry King）が CNN の看板番組となる「Larry King Live」のホストとなる。9月、CNN International がヨーロッパに向けて、生の24時間放送を開始する。そして12月、CNN は初めて黒字を計上することに成功する。

1980年のスタート以来、赤字を続けながら、絶えず積極的経営、世界進出への積極的プログラムによって、5年目にして黒字に転換することに成功したわけである。（表1参照）

86年1月には、スペース・シャトルのチャレンジャーが空中爆発を起こすという事件があったが、この時 CNN だけが生中継をしていて、他のネットワークはいつもの見慣れた打ち上げシーンということで、中継に臨んでいなかった。CNN は思いがけない爆発シーンを撮っていたので、この映像が世界中で使われることになった。大きな事件の発生の度ごとに、CNN の評価が高まっていくことになる。

同年4月、リビアとアメリカが戦闘状態となり、CNN はリビアに対するアメリカ軍の攻撃の様態を幅広くカバーするが、この放送に対して CNN は、Overseas Press Club 賞を授賞する。同月、CNN のニュースに加盟する国内の放送局の間で、SNG（Satellite News Gather-

表1 CNN & Headline 収支状況
(millions of dollars)

	Revenues	Operating Profit (Loss)
1980	7	(16)
1981	29	(11)
1982	50	(16)
1983	65	(14)
1984	86	(20)
1985	123	13
1986	167	39
1987	209	55
1988	267	86

(CNN 1989年, Press Release 資料より)

ing) の利用が始まり、国内ニュースの取材が一層強化されることになる。

87年5月には、レーガン政権下の「イラン／コントラ事件」についての議会聴聞会を連続で生中継したことも、他のネットワークと差をつけるものとなった。

同年7月、最新の設備を備えた CNN センターが完成。CNN と HEADLINE NEWS はともに新センターに移る。最新のスタジオ、グラフィック設備、コンピューター装備のニュース・ルームを持った世界への発信センターがアトランタに建設されたわけである。9月に、国内の加盟放送局向けに、1日9回のニュース提供「Newsource」を始める。

同年10月、CNN のキャスター、Bernard Shaw と Charles Bierbauer が、レーガン大統領との独占インタビューを認められる。これは、レーガンが2期目の大統領として、テレビに依じる最初のインタビューであった。これは、CNN が主としてケーブルテレビへのサプライヤーであるにもかかわらず、全米における CNN の存在の大きさが社会的に明瞭に認知されたことを物語るものとして考えてよかろう。

87年10月、世界最初のグローバル・ニュース「CNN WORLD REPORT」が始まる。100か国を越える国で用意されたニュースを一つにまとめて番組化したもので、いかにしてグローバル番組が可能かの一つの試みであり、CNN のグローバル政策の一環として考えることが出来るものである。

88年3月、CNN は東ヨーロッパでの最初のクライアントとしてポーランドに放送を開始。10月にはアフリカ大陸のジンバブエと協定を交わす。これは CNN のアフリカ大陸での最初の放送となる。

同年12月1日現在のニールセン調査では、CNN は約4,920万のケーブル加入世帯に到達。これは、全米のケーブル家庭の95.9%になり、テレビ所有世帯の54.4%に該当する。8年前のスタートの時には、テレビ所有世帯の2%であったことを思えば、その成長ぶりがうかがえようというものである。(表2参照)

表2 CNN 加入世帯の変遷
(in millions)

June 1980	1.7
Dec. 1981	9.8
Dec. 1982	17.5
Dec. 1983	25.1
Dec. 1984	31.4
Dec. 1985	33.5
Dec. 1986	37.5
Dec. 1987	43.4
Dec. 1988	48.5
May 1989	50.3
Cable Systems : 8,376	

(CNN 1989年, Press Release 資料より)

一方の HEADLINE NEWS も、89年1月には、3,400万世帯をカバーするまでに成長を遂げるのである。89年度資料では、HEADLINE NEWS は210のローカル放送局にも受けられ、何百万の放送視聴者にも届けられている。放送局では自局のニュースを強化するために HEADLINE を利用する。その他 HEADLINE は、全米の60万を越えるホテル・ルームで見られるし、それはまた世界75か国に送り出される国際版の主要な部分を占めているのである。

Hank Whittemore によれば、1990年6月1日の創立10周年には、CNN は全米 5,300万世帯、全世界84か国で視聴されているという⁵⁾。

5) CNN の組織

CNN は、Headline News, CNN International とともに、Turner Broadcasting System, Inc. のニュース部門を意味するわけであるが、3セクションとも、ニュースに関わり、相互に関係あっていることに変わりはない。

1989年度の資料によるが、従業員は CNN と Headline News を合わせて1,600人。1990年6月では、米国内9か所、米国外18か所で1,800人に達する⁶⁾。かなり大きな組織であることがわかる。日本で言えば、民放の東京キーステーション位の規模ということになるろうか。

国内の拠点としては、本拠地としてアトランタ、ニュース・ビューローとして他に8地点を持つ。シカゴ、ダラス、デトロイト、ロサンゼルス、マイアミ、ニューヨーク、サンフランシスコ、ワシントン DC である。国内ニュースについては、自らのニュース・ビューローの他に、国内の210局のローカルテレビ局と交換協定を交わしている。ケーブル・サプライヤーとしてスタートした CNN とローカル放送局との結び付きが注目されるところである。よりインディペンデントな放送局にあっては、CNN からのニュースネットはメリットがあるし、CNN にとっても幅広く国内ニュースがカバーできて好都合ということになるのであろう。前年度の88年資料では、ローカルテレビ局は190局となっており、その増加傾向がうかがわれる。

次に国際ニュース・ビューローであるが、89年度資料で、全部で12局ある。北京、カイロ、フランクフルト、イエルサレム、ロンドン、マナグア（ニカラグワ）、モスコ、ナイロビ（ケニヤ）、パリー、ローマ、東京、サンチャゴ（チリ）の12カ所であるが、その他に国際的な番組・ニュース機関に加盟している。それらには、Worldwide Television News, Eurovision, Intervision, ABU (Asian Broadcasting Union) の news pool とかがある。そしてまた外国の放送局との交換協定も数々あるというわけである。

CNN は89年度で、75か国のケーブルテレビ、テレビ放送、ホテル・ルームなどで視聴されており、どれだけの人々をカバーしているのかは定かではないが、世界に向けてネットを拡大しようとしていることは明らかである。映像ニュースのグローバル・ネットワークを目指していると考えてよい。87年度が55か国であったから、89年度には20か国増えたことになる。もっと増やしていき、CNN はまさに世界のテレビニュースの配信機関になっていくように思われる。

当面その75カ国の内訳を見ると、ヨーロッパが最も多く22カ国、次いでカリブ諸国21、ラテンアメリカ13、パシフィック10、アフリカ7、中東1、北アメリカ（カナダ）1となっている。（表3参照）

表3 CNN を利用する75か国

Caribbean	Latin America	New Zealand	Portugal
Anguilla	Argentina	Samoa (American)	Spain
Antigua	Bolivia	Taiwan	Sweden
Aruba	Chile	Thailand	Switzerland
Bahamas	Colombia		Turkey
Barbados	Costa Rica	Europe	United Kingdom
Bermuda	Ecuador	Austria	
Bonaire	ElSalvador	Belgium	Middle East
Cayman Islands	Guatemala	Corsica	United Arab Emirates
Curacao	Honduras	Cyprus	
Dominica	Mexico	Denmark	North America
Dominican Republic	Panama	Finland	Canada
Haiti	Peru	France	
Jamaica	Venezuela	West Germany	Africa
Montserrat		Greece	Cape Verde Islands
Nevis	Pacific	Ireland	Ghana
Puerto Rico	Japan	Italy	Liberia
St. Kitts	Australia	Luxembourg	Nigeria
St. Lucia	China (PRC)	Monaco	South Africa
St. Maarten	Guam	Netherlands	Zimbabwe
Tortola	Hong Kong	Norway	Morocco
Trinidad Tobago	Korea	Poland	

6) CNN の番組編成

CNN はニュースの専門チャンネルであるが、ニュースと言ってもさまざまな伝え方があるし、種類がある。新聞とは違ったニュース・レポーターの形がある。そうしたことを念頭において、いくつかのカテゴリーに分け、その番組編成について見ていこう。（資料は1989年現在のものによる）。

ウィークデー（月～金）、土曜日、日曜日と3区分して、レギュラー番組の編成を行うが、事件が起こって生中継が入ると、臨時の措置が優先する。衛星は現在、CNNもHeadline Newsもギャラクシー1（Galaxy）を使っており、アメリカ東海岸から西海岸まで全部を同時にカバーしているので、東西の時差3時間を考慮にいれての編成を行っている。地上波のネットワーク・ニュースでは、現地の生活時間を優先してテープ化して、時差の克服をしているが、CNNの場合は全米同時に生でカバーし、24時間放送の利をいかして、編成の上で時差への対応を行っている。

アメリカのケーブルテレビ（井上）

(1) デイリー・ニュース・プログラム

キャスターがについての通常のニュース番組である。現地からレポートされたニュースそのものはリピートされることはあるが、キャスターは番組ごとに変わっていき、もちろん新しいニュースが入ればそれに対応していくので、生放送の態勢がいつもとられている。番組名と放送時間、キャスター名を次に記す。時間は東部時間で示す。

[ウイークデー]

EARLY BIRD NEWS 5:30—6:00 am Mary Anne Loughlin & Bob Cain

早起きの人々が対象

DAYBREAK 東海岸の人々への包括的な朝のニュースで、それぞれ30分番組でキャスターは変わる。

6:00 am—アトランタの Mary と Bob

7:00 am—アトランタの Molly McCoy, ワシントンの Reid Collins

8:00 am—アトランタの Brian Nelson, ニューヨークの Norma Quarles

DAYWATCH 9:00 am—12:00 pm 西海岸の人々への朝のニュースとなる。西海岸では朝6時となる。

アトランタから Mary, Bob, Molly, Brian, ワシントンから Reid, ニューヨークから Norma が担当。

NEWSDAY 2:00—3:00 pm ワシントンの Bernard Shaw がアンカーを勤め、アトランタの Don Miller, Bella Shaw, ニューヨークの Norma Quarles が加わる。

4:00—5:00 pm アトランタの Don と Bella が担当。

NEWSWATCH 5:00—6:30 pm 一日の国内および世界ニュースの最初のまとめを行う。Lou Waters 担当。ニューヨークの Mary Alice Williams が加わる。

PRIMENEWS 8:00—9:00 pm 東海岸向けの最初のプライムタイム・ニュースで、一日の内外のニュースを総括して流す。アンカーはアトランタの Lou Waters とワシントンの Barnard Shaw.

最も権威ある賞, ACE (Award for Cable Excellence) を授賞。New York International Film and Television Festival からも金賞を授賞している。

CNN EVENING NEWS 10:00—11:00 pm 東海岸向けでは、一日のニュースの深夜版になり、西海岸の人々にはプライムタイムのニュースを届けることになる。アトランタの Patrick Emory, Donna Kelley が担当。

NEWSNIGHT 12:00 am—1:00 am アトランタの Patrick Emory, Donna Kelley が担当。東海岸では深夜だが、西海岸では夜の9時からということになる。西海岸での最新のニュース、新しい一日が始まり出しているヨーロッパ、中東、極東地域の出来事をレポートする。

NEWSNIGHT UPDATE 1:30—2:30 am NEWS OVERNIGHT 3:00—4:00 am
これら二つの番組は東海岸から西海岸まで全米が深夜時間帯になるので、世界の全てのタイムゾーンの人々に向けて、ニュース全般を生でレポートする。

[ウィークエンド]

DAYBREAK, DAYWATCH, NEWSDAY, NEWSWATCH, PRIMENEWS, CNN EVENING NEWS, NEWSNIGHT はウィークデーと同じだが、キャスターは変わる。アトランタからは, Patrick Greenlaw, Steve Schatz, Susan Rook, Cheryl Jones, Rick Moore が, ワシントンからは David French が当る。その他に10分間の NEWS UPDATE が午前9時, 10時, 11時, 午後2時, 4時, そして午前1時に入る, という編成になる。

デイリーのレギュラー・ニュース番組について見てきたが, 特徴をまとめると, ①どのニュースもキャスターつきの生放送の形態をとり, ②同時に全米をカバーしながら, 東と西の時差を配慮した編成を行っている。③生活時間を考慮し, 各番組に比重をつけて番組の特徴を出している。④本拠地のアトランタをベースにワシントンとニューヨークをつなぎながらニュース編成を行っている, ことなどが指摘できる。

(2) ライブ・レポーティング

上記の特徴の中でも, 特に強調すべきは, 生のレポーティングである。CNN はスタートの時から, “CNN LIVE” を方針としている。これは CNN が, まさにテレビのニュースであることの宣言でもある。突発事件を最も早く, 最も完全にカバーすることを目指したわけである。CNN は突発事件を取り上げるのに, レギュラー番組をはずすかどうかのジレンマを持っていない。事件がどこで起ころうとも, いつ起ころうとも, それらは CNN の“レギュラー”なのだという考え方である。こういう考え方は, 地上波のネットワークでは出来ない考えと言わなければならない。先に, CNN の発展のところで触れたところであるが, 他のネットワークが事件の後でしか流せなかった数々の事件を, CNN の視聴者は目撃することが出来たのである。スペース・シャトルのチャレンジャー爆発, アメリカのリビヤ爆撃, レーガンとゴルバチョフの一連のサミット会議など全て生で連続して伝えられた。レーガン政権下の「イラン/コントラ事件」の聴聞会では, これを初めから終わりまで生中継で取り上げ, 視聴者に自らの判断を迫った。このような取

り上げ方は CNN だけであった。またこれまでのニュース報道の慣習を破って、市民の犯罪裁判の生中継を行って（1984年3月、酒場でのレイプ事件裁判を中継した）、論議を巻き起こしたりもした。1988年の大統領選では、CNN は大統領レースに600時間を越える報道を行った。初めの党员大会から始まり、夏の全国大会に至る長い間、選挙キャンペーンにとって重要な節目になるようなものは全て生で取り上げるということもした。CNN は現地に一番早く着て一番遅くまで残ると言われている。

89年の私のアメリカ滞在中で、一番印象に残っているのは、中国の天安門広場事件の生中継であった。その5月19日金曜日（中国では5月20日）、天安門広場からの生中継が続いていたが、この日に中国政府の戒厳令が出され、CNN もテレビ中継の中止命令を受けるが、現場の CNN スタッフはぎりぎりまでねばり、中止を要請する中国の役人と CNN プロデューサーとの現場交渉をそのまま最後まで写し続けたのである。口頭命令では承知せず、上層部の文書を要求するなど、ぎりぎりまで食い下がるねばりに、ジャーナリスト根性を見せつけられた思いがしたものである⁷⁾。

これまでに触れた事件は、僅かな例に過ぎないが、CNN はこれまでのネットワーク・ニュースの延長上に位置する「ニュース専門」チャンネルではなく、私達がこれまでに見ることの出来なかった事件・現実をそっくりそのまま私達の眼前につきつけるチャンネル、そういう新しいメディアとして考える必要がある。

（3）グローバル・プログラム

CNN は国内の取材能力を強化していくばかりでなく、世界への進出をはかるべく、海外ニュース・ビューローの拡大、世界のニュース機関との提携と、一貫してグローバル・ネットワークの構築を目指している。先にも若干触れたところであるが、89年で、世界75か国、90年には84か国に配信を行っている。まさに世界の映像ニュース通信社、あるいは世界のテレビ局になることを目標としていると考えてよいのではないか。番組の上にその歩みをみていこう。

CNN の一般のニュース番組において、海外ニュースを取り上げていることは言うまでもないことであるが、CNN が初めて黒字に転じた年の1985年、「THE INTERNATIONAL HOUR」という国際ニュースだけを扱う番組をスタートさせた。月～金のウィークデー3:00 pm—4:00 pm（東部時間）の一時間番組で、その日のグローバルなトップニュースを主に取り上げるが、長期に渡って見られる地域の情勢や生活様式なども取り上げる。アンカーはワシントンの Bernard Shaw, アトランタの Ralph Wenge が勤める。

「THIS WEEK IN JAPAN」という日本を紹介する番組がある。土曜日9:30 pm—10:00 pm（東部時間）の30分番組で、その翌日の3:30 am—4:00 am に再放送される。番組ホストは、Mark Dulmage。私自身、滞米中に何度か見たが、日本人の目から見ると題材が片寄っているのではないかと思わせられる時があった。しかし、アメリカ人の CNN 特派員が取材をしてい

ることを考えると、成程こういうところがアメリカ人の興味を引くのであろうかと思わせられもした。効果的な紹介番組というのは、難しいのが当たり前で、共同制作などの工夫がなされるべきであろう。アメリカに滞在していると、テレビからの日本の情報は非常に少ないのが現実で、この種の番組は在米日本人に多く見られているのではないか、私の周辺の日本人に見ている人が多かったもので、そんな感想を持った。

「INTERNATIONAL CORRESPONDENTS」は、土曜 6:30 am—7:00 am (東部時間) の30分番組で、翌朝 2:00 am—2:30 am に再放送される。ホストは Mary Tillotson. 外国ニュース機関のワシントン駐在ジャーナリストが4~5人集まり、時の話題をめぐってディスカッションを行なう。どの国のジャーナリストも英語を使用する。

「CNN WORLD REPORT」は、日曜 3:00 pm—5:00 pm (東部時間) の放送で、再放送がその日の深夜12:00時からある。1987年10月スタート。グローバル・コミュニケーションを一層発展させる目的で生まれた番組である。89年にはCNNは、105カ国の128のニュース機関にニュースを依存している⁸⁾。

各ニュース機関は自らの選択で選んだレポートをCNNに送り込む。CNNではこれらを検閲せず編集せず、そのままを視聴者に提供する。国別にニュースがレポートされるが、それぞれ国の事情を反映して内容はまちまちである。各国のニュースは3分間のレポートで、検閲せず編集せずの原則はプロパガンダ臭の強い国にも適用されることは言うまでもない。私の視聴体験で印象に残っているのは、アラブ、アフリカ、中南米、東欧などの戦争、デモ隊と警官の衝突、クーデターなどの激しい動乱のレポートが続く中に、日本からの「トマト銀行が人気」のレポートが入っていて、日本がいかに平和であるかをあらためて感じさせられた覚えがある。

世界の出来事を、特定の編集者を置かず、一つの番組の中に収めた番組というのは、この番組をもって最初とするのではないか。世界の人々が見るグローバル・プログラムとは何なのか、CNNのこの「WORLD REPORT」は、それへの一つのチャレンジとして考えることが出来る。国によっては、言論の自由が保障されているところ、政府のコントロールがあるところなどさまざまであるが、世界からのレポートをそのままに、一つの番組としてまとめて見せるところに、番組の新しいコンセプトが伺える。

「INTERNATIONAL HOUR」がCNNのアンカーを置いて、一定の編集意図のもとに制作された国際ニュース番組であるのに対し、「WORLD REPORT」はそれとは違った新しいコンセプトでもって作られていることに注目したいと思う。それだけに「WORLD REPORT」は、世界のスタッフの意見交換の場が必要となる。1989年の春に、初めての「CNN WORLD REPORT 会議」が開かれる。各国の番組スタッフが初めて一堂に会したわけで、各国の事情、取材上の困難などを話し合い、CNNはその模様をまた番組に取り上げて放送した。

(4) ウィークデー・インタビュー・プログラム

CNN には、現地レポートばかりではなく、さまざまな問題について意見を聞き、ディスカッションを行う番組も数が多い。情報を伝えるだけではなく、その情報をどのように解釈するのか、どういう意味づけを行うのかは、ジャーナリズムにとって重要な問題であり、そういう意味で、インタビュー番組やディスカッション番組は欠かすことが出来ないのである。

「SONYA LIVE IN LA」月～金、12 noon—2:00 pm (東部時間)、生放送

ウィークデーの正午から2時間の番組で、ホストは臨床心理学者の Sonya Friedman。西海岸のロサンゼルス発のネットワーク番組で、主として主婦層をターゲットにしている。

ホストの彼女は臨床心理20年のキャリアー持ち、ゲストを迎えてインタビューを行うと同時に、視聴者からのコール・イン (call-in) を受け付ける。彼女の会話は論争的な社会問題について、しばしば新しい光を投げかける。例えば、エイズ問題、働く母親の問題、死ぬ権利の問題、麻薬使用の問題などを取り上げ、問題を提起し、自らも発言する。番組の前半はゲストとの会話で進むが、後半では視聴者はホストにもゲストにも質問したり意見を述べる事が出来る。

「RARRY KING LIVE」月～金、9:00 pm—10:00 pm、再放送 4:00 am—5:00 am (東部時間)

全米のトークショーのトップホストの一人に数えられている Rarry King をホストにしてのインタビュー番組。政治家は大統領からも、スポーツや芸能ではそのトップクラスから、あらゆるジャンルの有名ゲストを迎える。どのジャンルの人とも中身の濃いインタビューが出来る能力があり、また視聴者からのコール・インを受けるのが実に巧みなのである。既に、ACE 賞を (Award for Cable Excellence) 2度授賞している。

「SONYA LIVE」も「RARRY KING LIVE」も滞米中何度となく視聴したが、社会の重要人物、話題の人物を引っ張り出し、気軽にインタビューを行い、視聴者からの電話をまた気軽に受け付けていく、その軽快な運びに感心したものである。

ホットなディスカッションを特徴とする番組に、「CROSSFIRE」という番組がある。政治をテーマとする。送り出しはワシントン。放送は月～金の 7:30 pm—8:00 pm で、再放送は 1:00 am からと 5:00 am から (東部時間)。レギュラーとして、右手にコンサーバティブの Patrick Buchman、左手にリベラルの Tom Braden が位置し、真ん中にテーマに関係のある政治家あるいはニュース・メーカーを配する。賛成—反対のフォーマットを使ってのディスカッション番組なので、いつも激論となる。熱烈さ、頑固さ、鋭いウィットが特徴で、おおいに負けじとばかりに応戦しあうが、時々笑いも入って、後味の悪くない番組となっている。激しいが、後味を悪くせず、さわやかに仕上げているところが印象に残る番組である。

(5) ウィークエンド・ニュース・プログラム

土曜と日曜のウィークエンドは、ウィークデーとは違った編成が行われるが、ニュース番組も同様で、1週間の出来事を振り返ったりまとめたりのニュースやインタビュー、ディスカッショ

ン番組が編成される。(時間表示はいずれも東部時間)

「THE BIG STORY」 30分番組 土曜 8:30 am & 4:30 pm。日曜 7:30 am & 4:30 am。
1週間にあった出来事で一番大きな事件をより詳しく取り上げる。本部のアトランタから Don Miller が担当。

「THE WEEK IN REVIEW」 日曜 2:00 pm & 9:00 pm。1時間のニュース・マガジン番組。1週間の主な出来事を振り返る。担当は Lynne Russel, Bob Cain.

その他に、主なニュースに対するさまざまな分析や見方を提供するために、ワシントンから重要なインタビューやディスカッションを送り出す次の4つの番組がある。

「EVANS & NOVAK」 土曜 12:30 pm & 12:30 am。日曜 8:30 am & 3:00 am。30分番組。コラムニストの Rowland Evans と Robert Novak が世界の重要人物とディスカッションを交わす。

「NEWSMAKER SATURDAY」 土曜 1:30 pm & 5:30 pm。30分番組。ホワイト・ハウス記者のチーフ、Charles Bierbauer がその週の主要ニュースの当事者の一人にインタビューする。

「NEWSMAKER SUNDAY」 日曜 10:30 am & 5:30 pm。30分番組。選ばれたテーマについてのエキスパートとの討論を通じて、時の公共問題を検討する。

「CAPITAL GANG」 土曜 7:00 pm & 11:00 pm。30分番組。ワシントン通のジャーナリストの4人、Pat Buchanan, Robert Novak, Al Hunt, Mark Shields が、ゲストを招いてその週の出来事について「街頭談義」のように論じ合う。視聴者にはおかまいなく言い合い、激しいやりとりもする。

ウィークデーおよびウィークエンドを通じて、政治・公共問題について、政治家、官僚、ジャーナリスト、専門家達が、インタビュー・ディスカッションを行う場面がかなり用意されていることに気がつく。公共問題を論ずる番組では、アメリカでは一般的に政治家の登場の多いのが特徴である。官僚の現役あるいは元官僚の出演も多く見られるし、放送ジャーナリストばかりでなく、新聞・雑誌のジャーナリストの出演も多い。

(6) ビジネス・ニュース

CNN は、ビジネス・ニュースに力をいれており、ネットワーク番組の中で約15%を占める位である。個人の投資戦略から最新の世界経済の動きまでをカバーする。

「WALL STREET UPDATES」が月～金で、午前9時と午後5時(東部時間)の間の30分をとって放送。最新の経済ニュースと長期的展望や全体的な分析・解説をする専門家とのインタビューで構成される。

「BUSINESS MORNING」は、まず朝一番の経済ニュースで、月～金の6:30 amからの放送で30分番組。ホストは Stuart Varney で、アメリカのビジネス界の当日のプレビューと同時に前夜の海外市況のまとめなどを内容とする。

「BUSINESS DAY」がそれに続き、月～金で7:30 am（東部時間）からの30分番組。Bill Hartley が、世界の取引状況のモニターを続ける。

次のビジネス・ニュースは夜に入って、30分の「MONEYLINE」。月～金で7:00 pm からと11:00 pm（東部時間）からの放送。CNN のビジネス・ニュースの中心に当たる番組で、経済記者の Lou Dobbs がアンカーを勤め、レギュラーで Dan Dorfman, Tom Cassidy, Myron Kandel の経済専門家が加わり、経済ニュース全体をレビューし、分析と展望を行う。

ウィークエンドには、1週間における経済、産業、財政などの主な展開をレビューする番組として、30分の「MONEYWEEK」が土曜の9:30 am と5:30 am（東部時間）からと、日曜の1:30 pm と2:00 am（東部時間）に放送される。

同じウィークエンドで、土曜日には「PINNACLE」という番組で、企業のトップ経営者のパーソナルなプロフィールを紹介する。6:30 pm と1:30 am（東部時間）からの放送で30分番組。同じく土曜日に、3:30 pm（東部時間）から30分の「YOUR MONEY」が消費者情報や小口投資家のための資産管理などのアドバイスを扱う。

日曜日には、「INSIDE BUSINESS」というビジネス・ニュースを生み出すビジネス界のリーダーを一人招いてのインタビューがある。6:30 pm と11:00 pm（東部時間）からの30分番組で、私の見たものでは、ナイト・リダー社の社長がゲストで、新聞ビジネスについて、雑誌の「フォーチュン」「ビジネスウィーク」の両編集長が加わってインタビューするというもので、ゲストに応じたインタビュワーを配するという工夫で、内容の濃いものになっているという印象を受けた。

CNN のビジネス・ニュースで記録されるべきものに、1987年10月19日に起こった株式市況暴落の報道がある。CNN は世界中のニュース・ソースを使い、日を通して生でレポートを行った。ウォール・ストリートのみならず、ヨーロッパ、アジアの市況もカバーしたのである。後に、ロサンゼルス・タイムズが、それは必要不可欠なニュースであったと称したように、優れた経済報道として記憶されている。そのことの故に、ピーボディー賞（Peabody）を与えられる。

（7）スポーツ・プログラム

1週間に30分のスポーツ番組を9本用意している。単なるハイライト・ニュースの番組ではなく、スポーツ・ジャーナリズムを目指した番組作りを行っている。CNN が初めて取り上げたのであるが、プロ・スポーツのかかえる諸問題について、4大スポーツのコミッショナーがディスカッションする番組であるとか、スポーツ選手の不法な大学入学、ステロイドの使用問題、選手交渉などのインベスティゲイティブ・レポーティングを取り上げる。アメリカン・フットボール

のスーパー・ボール、野球のワールド・シリーズ、テニスのアメリカン・カップ、そしてオリンピックなどの有名なゲームは、生中継を入れて報道する。以下番組を列記する。(番組は全て30分。表示時間は東部時間)。

SPORTS TONIGHT 週7日間 11:30 pm—。月～金のアンカーは Fred Hickman, Nick Charles。土・日は Hannah Storm, Gary Miller。

その日のスポーツ・ハイライト、スコアの結果、特別レポートなど。この番組は毎日のCNN スポーツの中心的番組となっている。

SPORTS LATENIGHT 週7日間 2:30 am—。西海岸向けの生の深夜スポーツ番組。

SPORTS CLOSE-UP 土曜 7:30 am— と 4:10 pm—。個々のチームやプレーヤーを取り上げる。

COLLEGE PREVIEW 土曜 11:30 am—

SPORTS SATURDAY 土曜 7:30 pm—

SPORTS SUNDAY 日曜 7:30 pm—

PRO PREVIEW 日曜 11:30 am—

THIS WEEK IN THE NBA 日曜 6:00 pm—

SPORTS REVIEW 土曜・日曜 5:00 am—

以上のように、スポーツのニュース・話題をめぐってさまざまな角度からとらえた番組を提供しており、その功績を認められて ACE (Award for Cable Excellence) 賞を2度受けている。

(8) 科学・健康のプログラム

科学・技術・医薬・保健の分野をカバーして、関連する大学、研究所、産業界における話題や、また注目される人物などを取り上げる。

デイリーのニュース番組のなかに用意されたコーナーとウイークエンドの番組とで全体をカバーする。デイリー・ニュースの中では、「NEWS FROM MEDICINE」「NUTRITION NEWS」「SCIENCE AND TECHNOLOGY」のコーナーが設けられている。

ウイークエンドの番組としては、次の3番組がある。(時間表示は東部時間)

「HEALTHWEEK」 土曜 9:10 am & 2:10 pm, 日曜 6:10 am。20分番組。ホストは Gary Schwitzer と Dan Rutz で、1週間の医学関係ニュースを扱う。ホストの二人は病院や研究所、大学を訪ねて、新しい医学の発展や応用についてレポートを行う。この医学チームは4カ月に1回、1時間のドキュメンタリー番組を制作する。例えば、臓器移植、高齢化、精神分裂症などの問題を番組化している。

「ON THE MENU」 土曜 3:00 pm, 日曜 10:10 am。30分番組。臨床上の栄養や飲食物の研究の最新の成果に的を絞って、栄養学者の Carolyn O'Neil が太り過

アメリカのケーブルテレビ（井上）

ぎのダイエットから癌の防止に至るまでの話題を取り上げる。習慣としてとる食べ物の栄養の観点からレポートするのが特徴となっている。

「SCIENCE & TECHNOLOGY WEEK」 土曜 11:10 am, 日曜 12:30 pm, 20分番組。

CNN の科学・編集者 Charles Crawford が担当。数々の科学研究所からのレポートや実験の現場からの報道を行う。優秀な科学報道番組として、1987年度の ACE 賞を授賞する。

(9) 娯楽・ファッション・観光

まず娯楽情報であるが、月～金で「SHOWBIZ TODAY」(6:30 pm—7:00 pm 東部時間)がある。ニューヨークとロサンゼルス支局が、東海岸から西海岸までの娯楽情報をカバーする。つまり、ブロードウェイからハリウッドまでのショービジネスの世界をレポートする。番組は生放送で、ニューヨークから Liz Wickersham と Bill Tush がアンカーをつとめ、ハリウッドの通信員 Sandy Kenyon とで、映画の封切り、特別なパーティー、有名人の催し、到着したばかりのスター、仕事中のスターなどについてレポートを行う。娯楽ニュースを生放送で取り上げているのは、この CNN の番組だけである。

週末には、「SHOWBIZ WEEK」(土曜 10:10 am & 9:00 pm, 20分番組)が、1週間の娯楽ニュースをまとめて放送する。娯楽レポートには、娯楽産業に影響を与える裏方の動きや広告、出版界の動きなども取り上げられる。そして、娯楽世界のイベント、例えば、オスカー賞のノミネーションとか、エルビス・プレスリー死後10周年イベントや慈善コンサートの催しなどが取り上げられる。

ファッション関係では、「STYLE WITH ELSA KLENSCH」という30分番組が、ウィークエンドに組まれている。土曜 10:30 am & 2:30 pm, 日曜 6:30 am (東部時間)の放送で、国際的なファッションの動向、オートクチュール、インテリア・デザインの動向などをレポートする。Elsa klensch はファッション動向の目付役として広く知られている。

観光ガイドとして、「TRAVEL GUIDE」(土曜 1:10 am, 日曜 11:10 am, 東部時間)が20分の番組として、ウィークエンドに組まれている。Bella Shaw がホストをつとめ、旅行先の紹介、旅のニュース、お天気、観光の傾向、休暇のための予算、観光業界のニュースなどを取り上げる。

その他として、CNN は私達を元気付けたり、勇気付けたりしてくれる能力や性質を示した人間をニュースの中で取り上げる。デイリーのニュースのコーナー「LOOKING UP」というのがそれである。何をニュースにするかの CNN としての一つの表明として受けとめることが出来る。

(10) スペシャル・レポート

24時間体制でデイリーのニュース番組を配しながら、見る人の視聴習慣も考慮して、企画もののスペシャル・レポートをどのように編成していくかは、難しい問題だと思われるが、CNN独自の工夫を凝らしているのが注目される。

まず最初、ウィークデーのニュースの中で、5分間のドキュメンタリー・レポートを放送して、それをまとめて30分とか60分、あるいは90分にして、ウィークエンドに時間をとって放送するのである。制作はスペシャル・レポート班があたる。これまでの例では、AIDSをめぐる疑わしいビジネス慣行を扱った「The Business of AIDS」、公共問題における不正な慣行のはびこりを問題にした「A Question of Ethics」、拡大するゴミ処理危機を取り上げた「Not In My Backyard」とか、30回シリーズで米ソ軍縮交渉を検証した「The Battle for Peace」などが上げられる。また1987年のアメリカ200年祭では、アメリカ合衆国憲法について100回シリーズで「A More Perfect Union」という番組を、エンサイクロペディア・ブルタニカとの共同で制作し、後に全国の学校図書館で利用出来るようにした。あるいはまた、連邦議会の議員を一人一人紹介した「Profiles in Congress」という番組を作り、後にそれをCNNは国会図書館に寄贈している。

CNNは「ニュース専門チャンネル」ということで、ニュースの比重は高いが、社会に問題を提起し、キャンペーン的にドキュメンタリーを制作し、また国民への政治教育に貢献していこうという姿勢を示している点を指摘しておきたいと思う。

(11) 学校教育プログラムの提供

ケーブル・テレビの番組サプライヤーの中には、民間企業でありながら、学校向けに番組サービスを行おうとする機関がある。非営利のC-SPANと営利のCNNがそれである。C-SPANについては別の機会に触れるとして、ここではCNNのケースについて見ておきたい。

サプライヤーが学校にいくら流したいと思っても、それをまず受けてくれるケーブル・システムがなければならぬし、学校側に支持があり、受ける施設が整っている必要がある。学校側としては、CNNの試みにNational School Boards Associationが支持を与え、その委員長James OglesbyはCNNのサービスを「major teaching tool」と評価している。CNN側は、ニュースをコマーシャル無しで15分間のパッケージ「CNN Newsroom」にまとめ、無料でサービスする。ケーブル・システム側では、1989年4月現在で、三つのMSO(ケーブル・システムを複数所有している会社)、Tele-Communications Inc., Continental Cablevision Inc., Jones Intercable Inc.が学校への供給に同意し、エリア内の学校でモニターやVCRなど関連の施設を持たないところでは、費用の全額負担をするか、一部負担をするかの援助を行う。全米の中・高校は約25,000あるが、そのうち55~60%は既にケーブル接続が可能な状態になっている。「CNN Newsroom」は午前3時45分(東部時間)に放送されるので、学校ではそれを録画して利用する。番組は、学校教育との関連を持つ必要があるため、それ自身のプロデューサーがい

て、教育関係者との関係を保持しながら制作を行っている。学校の先生は、録画したテープについて、自由に編集することが許されている。つまり、先生はニュース素材を教科に合わせ、自由に編集をして教材として利用することが出来るわけだ⁹⁾。

こうした CNN の教育への貢献の姿勢は、親会社の TBS (Turner Broadcasting System Inc.) を率いるテッド・ターナー (Ted Turner) のテレビ・ジャーナリズムへの姿勢を物語るものと解釈しておきたいと思う。学校への浸透は、CNN の未来の視聴者を作り出すことにもなるだろうし、テレビ・ジャーナリストを目指す若者を生み出す素地を用意することになるかも知れないが、テッド・ターナーがそこまで考えているかどうか、知る由はないとしても、新しいニュース機関の幅の広さを感じさせられるのである。

2. CNN HEADLINE NEWS

1) HEADLINE NEWS の歩み

HEADLINE NEWS が当初 CNN 2 として、1982年1月1日 (81年12月31日の midnight) にスタート、SNC と激しい競争を展開したことは、先の「SNC との競争」のところで触れたところである。簡単にその歩みを整理しておこう。

- 82年1月 CNN 2 としてデビュー。8万のケーブル加入世帯が対象。
- 4月 世界の加盟放送局に CNN 2 の売り込みを開始。
- 83年8月 CNN 2 の名前を HEADLINE NEWS と変える。
- 10月 TBS が SNC を買収する。HEADLINE NEWS は新たに230万世帯を加えて、合計900万の加入世帯を対象とすることになる。
- 12月 優れたニュース放送で、ACE 賞を受ける。
- 84年1月 二人だったニュースのアンカー・フォーマットを一人に変える。
- 10月 番組フォーマットに「Dollars and Sense」を付け加える。
- 85年9月 CNN International の提供でヨーロッパにデビューする。
- 86年4月 アメリカ空軍のリビア攻撃の影響の放送が、これまでになく最高の視聴率 3.1% を示す。占拠率 9%。
- 87年1月 スタート 5年目で、2,200万世帯の加入者を対象とする。
- 7月 CNN センターの新設備を誇る本部から送り出しを始める。
- 88年1月 アンカーの Don Harrison が、“ベスト・ニュース・アンカー” で ACE 賞に輝く。
- 7月 優れたニュース・セットで放送デザイン協会から金賞を受ける。
- 89年1月 株式市況を含んだ経済情報のフォーマットをスタートさせる。7年目を迎えるが、88年12月31日現在、ニールセン調査で HEADLINE NEWS は、3,470万ケ

ーブル世帯、ケーブル加入世帯の67.7%、テレビ所有世帯で言えばその内の38.4%に到達するまでになる。

HEADLINE NEWS は、最新のスタジオやグラフィック・システム、コンピューター・システムなどハイテク装置を使いながら、10人のアンカーと250人のジャーナリスト、それに CNN のニュース収集ソースに支えられており、そのことによって、「Around the World Every 30 Minutes」が可能となっている。

2) 番組フォーマット

24時間放送の中で、内外の重要でしかも多様なニュースを30分にまとめて、視聴者がいつでも見られて満足出来るといったフォーマットを作り出すことは、とても難しいことであるに違いない。国内・国外の主なニュース、ビジネス、スポーツ、天気、娯楽、トピックスなど多彩に盛り込まなければならない。特にビジネス情報、中でも株式市況は早く伝えなければならないので、ウィークデーの午前9時30分と午後5時0分（東部時間）の間は、画面の下に継続して、横ロールで流される。

フォーマットは4つのセグメントで構成される。セグメント1は、国内・国外の最も重要な最新版ニュースを用意する。世界のニュース・ビューローのソースが利用される。それと世界と国内の最新の天気情報がこのセグメントに入る。

セグメント2は、最新の株式市況、為替レート、貴金属の価格、石油価格などの経済情報、新たな展開が消費者や個人投資家にどのように影響を与えるかといったビジネス・レポートなどで構成。

セグメント3は、スポーツのハイライトとスコアの2分間ニュース。

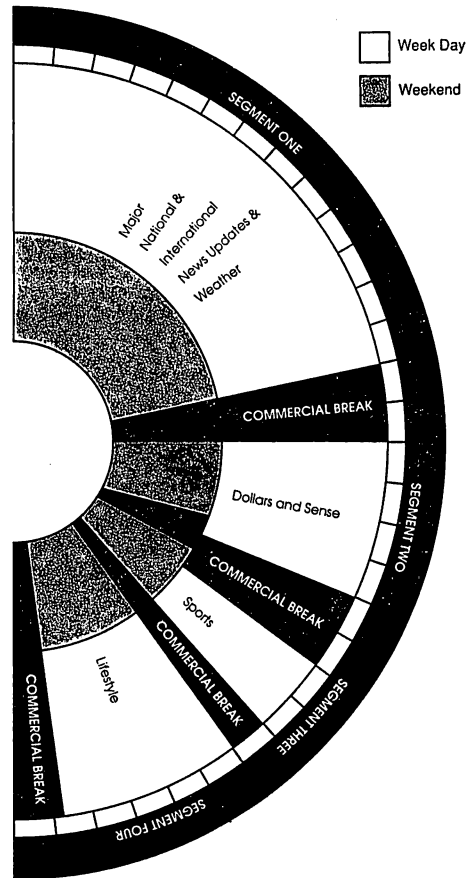
セグメント4は、話題となって人々の関心を引くライフ・スタイルに関するものや娯楽ニュースで構成するが、ケーブル・システム側が、ローカル・ニュースで埋めたいと思えば、ローカル用に利用してもよいセグメントにしてある。(表4参照)

3. CNN / Headline News の収入源

1) マーケティング

CNN と Headline News は、CNN と直接契約をしたケーブル・システムに衛星経由で伝送される。両者が受け取る加入契約世帯からの収入は、1987年で88.166 million \$、1988年は108.467 million \$ となっている。そうしたケーブル・システムとの契約期間は、3年が大半であり、それらの極く少数は自動的に契約更新される。大部分は契約期間中での料金アップを承認しているが、もし料金アップに賛成出来ない場合は、キャンセルを通告することによって、契約を解除することが出来る。1988年1月1日以降に締結された契約は、月額1加入世帯当たり料金

表4 CNN HEADLINE NEWS の番組フォーマット



が、2セントを越えて値上げがある場合のみ契約解除が出来るとされている。料金構造は次の様な基準に基づいており、一つは番組が流されるレベルである。つまり、単純にベーシック・サービス扱いなのか、段階的にいくつかのサービスを束ねてグループ化 (tier) を計って課金していく、そういうグループの中に CNN サービスを入れているのかどうかということ。もしそういうグループに入っていて、そのグループの契約世帯が、ベーシック・サービスの契約世帯の50%か、それ以下ならば、契約料金は2倍になる。二つ目は、契約世帯の数に基づいた割引を受けた上で、TBSの番組サービスをいくつとっているかという基準である。平均して、CNNとHeadline Newsで、1世帯当月額22セントとなっている。

ケーブル・システム側がCNNのチャンネルを取ってくれるように、CNNは1時間の中でのコマーシャル総量の2~3分をローカルケーブルに提供する。ケーブル側はその時間を利用してローカルのコマーシャルを入れて収入とすることが出来るわけである。またCNN側は、ケーブル側がCNNのプロモーションをはかってくれる代償として、コマーシャル・タイムを提供する¹⁰⁾。

2) 加入世帯収入と広告収入

広告収入は、年間で、1988年12月末現在、CNN が 110,119,000 \$、HEADLINE NEWS が 32,517,000 \$。これを1987年で見ると、CNN が 86,869,000 \$、HEADLINE NEWS が 24,262,000 \$ となっており、広告収入の面でも伸びていることが分かる。両者の広告収入を合わせると、1988年は 142,636,000 \$ となり、これにケーブル・システムを通して入る契約世帯からの収入を合計すると、251,103,000 \$ となる。契約世帯からの収入と広告収入の割合は 1 対 1.57、つまり全体収入の中で契約世帯からの収入が占めるのは 43%、広告収入の占める割合が 57% ということになる。この割合を1987年について見ると、加入世帯収入が 44%、広告収入が 56% となっており、若干の広告収入増が見られるが、広告収入が全収入の半分以上を越しているにしても、これまでのネットワークがその収入源を全て広告に依存しているのに対して、CNN はそれとは違った経営方策を確立するのに成功したわけである。新聞が購読料と広告費によって収入を稼ぐのと同様の経営が行われるようになったと見ることが出来よう¹¹⁾。

おわりに

1日24時間のニュース専門チャンネルのアイディアを考えだし、それを実現したテッド・ターナーの名前は、テレビ・ジャーナリズムの歴史に残ることは間違いない。当時のテレビニュース界は、NBC、CBS、ABC の 3 大ネットワークのニュースによって支配されており、そういう状況のなかで、「南部の田舎」と見なされていたジョージア州のアトランタを本拠地として、CNN をスタートさせ、ついにはネットワークニュースに迫り、圧倒するまでに成長させ、独自の24時間ニュース・チャンネルを確立したのである。もちろん、世界のテレビニュース界にあって初めてのことである。ワシントンやニューヨークを本拠地とするのではなく、南部のアトランタを本拠地にして成功したのも注目に値する。これも自在に使える通信衛星があったのと言わなければならない。通信衛星という新しい伝送メディアが、新しいニュースのあり方を現実化したわけである。

CNN は途中で、SNC と激しい競争を展開するが、競争があればこそ、HEADLINE NEWS というもう一つのニュース・チャンネルを生み出し、結果的には CNN と HEADLINE NEWS の二つのチャンネルを持ったことが、CNN の成功をもたらしたと言えようではないか。メインの CNN が、世界の事件にリアルタイムで対応し、HEADLINE NEWS で主なニュースをいつでも見たい時に見せるという対応をして、人々のニュースへの欲求に見事応えたのである。

CNN がアメリカ国内のニュース機関として登場し、最初は国内ニュースの比重が高かったし、アメリカ国民へのニュース配信ということでは、それは当然のことなのだが、CNN は、世界の各地にニュース・ビューローを作り、世界のテレビ・ニュース機関を目指そうとする。世界

の国々に CNN ニュースの売り込みに熱心で、世界の政治指導者に CNN を無料で提供するなども、プロモーションの一つと考えられる。番組編成の上でも、グローバル・プログラムの新しい試みを行うなど、世界のテレビ・ニュース機関を目指す姿勢に、あらためて注目しておきたいと思う。

新聞報道においては、ロイターや AP, UPI などの世界に文字ニュースを配信する通信社があるが、テレビ・ニュースではまだそうした通信社がない。通信衛星でテレビ映像を自由に送受信出来る今日にあっては、テレビ映像によるそうしたニュース機関が登場して当然なのかも知れない。CNN はまさにそうした世界のテレビ・ニュース機関を目指しているように思われるのである。別の言い方をすれば、これまでの国内を対象としてきたマス・メディアから、地球を対象としたマスメディアへの脱皮が図られつつあると考えることも出来るのである。全地球上をカバーする方向もあるが、ヨーロッパ地域とか、南北大陸であるとか、アジア圏あるいは太平洋地域であるとか、国を越えた広域圏を対象にした考え方もあり、これからはそういう方向へのマス・メディアのあり方が問題となってくるであろう。

アメリカでは、コマーシャル・テレビジョンが主流の中で、ケーブルテレビと通信衛星の登場で、CNN のようなニュース専門チャンネルが、契約世帯収入と広告収入の 2 本立ての収入源によって経営基盤を築くことに成功した意義も見落とすことが出来ない。番組サプライヤーとしては様々な収入形態が考えられるにしても、CNN の形態は、一つのモデルを示している。

CNN は「ニュース専門チャンネル」と言われ、勢い事件の生放送がイメージされ勝ちであるが、その活動の幅は広く、「テレビ・ジャーナリズム」の全般をカバーせんとしているように思われる。番組編成からも分かるように、その「ニュース編成」は多彩である。事件の生中継から、政治・経済・社会のニュースからスポーツ・エンタテインメントの報道、討論・インタビュー等による意見の広場の提供、ドキュメンタリー・問題提起キャンペーンの実施など、そうした活動の幅が広さがあってこそ、「24時間ニュース」が成り立っているのだと思われる。

(注) 資料については、TBS 発行の会社案内、年報、新聞発表資料、番組表、有価証券報告書、それに私自身の見聞記録に多くを負っているが、関係個所での参考文献を次に記す。

- 1) CNN の誕生から10周年を迎えるまでの CNN の歩みをドキュメントした書物として、Hank whittemore 『CNN: THE INSIDE STORY』(1990) が刊行され、その翻訳が神山啓二訳『急成長の CNN ～世界を変える米メディア企業の内幕』(上)(下)として、1991年テレビ朝日から刊行された。創業者テッド・ターナーをはじめとして設立に当たった創成期の人物の活動に焦点が当てられている。
- 2) プレス・プールへの参加をめぐる三大ネットワークとの闘いの模様は Hank whittemore 著、神山啓二訳、前掲書下巻96-105頁、173-175頁に詳しい。
- 3) Susan Tyler Eastman, Sydney W. Head, Lewis Klein 『Broadcast/Cable Programming』3rd edition, Wadsworth Publishing Company, 1989, p. 292-293.
- 4) CNN 2 と SNC との闘いの模様は、Hank whittemore 著、神山啓二訳、前掲書下巻206-228頁に詳しい。

- 5) 同上, 315頁。
- 6) 同上, 315頁。
- 7) この時の模様は, Hank whittemore 著, 神山啓二訳, 前掲書293-310頁にも詳しく説明されている。
- 8) 『Multichannel News』 Vol. 10, No. 20, 1989年5月15日号。
- 9) 『Multichannel News』 Vol. 10, No. 18, 1989年5月1日号。
- 10) TBS 有価証券報告書(1988), p. 7.
- 11) 同上, p. 7.